【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	大分県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	大分県大野郡大野町立中部小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	１	１	１	１	１	１		６	１１
児童数	１８	１８	１５	２１	２２	１６		１１０	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

一人ひとりが生かされる集団づくりをどのように進めていけばよいか
～「ふるさと・人権」をテーマにした生活科・総合的な学習の時間の取り組みを通して ～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

○個に応じた指導や学習集団の編成

〈ＴＴ指導〉

・１年生国語
　学校として、該当教科における基礎基本の力が生活科・総合的な学習の時間での学びを支えるもののひとつととらえているため。

・１年生算数
　数や形の概念形成の重要な時期であり、よりきめ細やかな指導を必要とする学年であるため.。

・２年生国語
　学校として、該当教科における基礎基本の力が生活科・総合的な学習の時間での学びを支えるもののひとつととらえているため。

・３年生国語
　学校として、該当教科における基礎基本の力が生活科・総合的な学習の時間での学びを支えるもののひとつととらえているため。

・４年生理科
　実験や実習などにおけるよりきめ細やかな指導と安全性が保障できることから、実施学年・教科の枠を広げ、研究に取り組むため。

・５年生国語
　学校として、該当教科における基礎基本の力が生活科・総合的な学習の時間での学びを支えるもののひとつととらえているため。

・５年生理科
　実験や実習などにおけるよりきめ細やかな指導と安全性が保障できることから、実施学年・教科の枠を広げ、研究に取り組むため。

・５年生総合
　課題解決学習における児童の様々な学習活動への支援が十分におこなえるため。

・６年生理科
　実験や実習などにおけるよりきめ細やかな指導と安全性が保障できることから、実施学年・教科の枠を広げ、研究に取り組むため。

・６年生総合
　課題解決学習における児童の様々な学習活動への支援が十分におこなえるため。

〈学習集団編成の工夫〉

・３・４・５年生算数教室　（昨年度までは、３・４年生対象）
　児童の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。

(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 一人ひとりが生かされる集団づくりをどのように進めていけばよいか ～「ふるさと・人権」をテーマにした生活科・総合的な学習の時間の取り組みを通して ～ ○　研究の見通し（仮説） ふるさとの自然や人々にかかわる探究的な学習過程を、［つかむ］→［予想する］→［調べる］→［まとめる］→［追究する］→［いかす］のステップで構成し、特に、「まとめる・追究する」活動において次の手だてをとれば、 一人ひとりが生かされ、お互いに認め合える集団へと高まることができるであろう。 ・個々の疑問やこだわりをもとに、その子なりの見通しを持った体験活動を通してわかったことの中から、伝えたいことがらを意識したわかりやすいまとめ方をさせる。 ・お互いの学びを交流したり分かち合ったりする活動を重視し、友だちとのつながりを意識できる場を保障する。 ○　研究の内容・方法 （1）課題解決学習のための支援 ・［つかむ］→［予想する］→［調べる］→［まとめる］→［追究する］→［いかす］という学習過程を明確にしながら、課題解決のために活動する子どもたちが自信をもってまとめたり、追究したりすることができるための支援をどのようにしていけばよいか。 （2）個に応じたきめ細かな指導のあり方 ・個に応じた指導のための指導方法、指導体制をどうくふうしていくか。 ・「まとめる力・伝える力」をどのようにつけていくのか。 ・文字（かな・漢字)、語句・語彙などの知識・技能をどのようにつけていくのか。 （3）効果的な評価 ・子どもたちによる自己評価や相互評価のための「ふりかえりカード」やファイルをどうくふうするか。 ・教職員サイドの評価方法について、その内容をどうくふうするか。

平成16年度	○　テーマ 生活科・総合的な学習の時間での学びを支える基礎基本の力をどのようにつけていくのか ○　研究の見通し 教科学習で培われる学力が総合的な学習に役立ち、総合的な学習の取り組みのなかで磨かれて、再び教科学習に返って生きるという相互補完の関係を明らかにすることができれば、学んだことを単なる知識・理解にとどめず、他の学習や生活に活かそうとしたり、新たな問題を発見するために役立てたり、地域・社会へ働きかけてともによりよく生きていこうとしたりするなど、「生きてはたらく力」を育てることができるであろう。 ○　研究の内容・方法 （1）総合的な学習と教科学習との相互関係を明らかにする実践研究 ・総合的な学習をより豊にするために、教科学習において重点的に培っておくべき力をどうとらえ、どのようにつけていくのか。 （2）個に応じたきめ細かな指導のあり方 ・個に応じた指導のための指導方法、指導体制をどうくふうしていくか。 （3）効果的な評価 ・ポートフォリオの活用に向け、どのように取り組んでいくのか。

(3)　研究推進体制

◇生活科・総合的な学習の時間で育てたい力を、次の三つの観点からとらえる

【問題を解決する力】…　①課題を見つける
②解決の計画（見通し）を立てる
③計画を実行する
④得られた結果を吟味する
⑤過程や結果（仕方・結論・作品）をまとめる
⑥結果を活用したり、発信したりする

【学び方・考え方】　…　①いろいろな方法を工夫して追究できる
②考えや意見を発表したり、話し合ったりできる
③情報を集め、吟味し、活用できる

【自己の生き方】　…　①自分と他の人、社会との関わりを考える
②自分に自信を持ち、生き方を考える

さらに、こうした力を支える“おおもとの力”として、国語科を中心としながら、「話す力」・「聞く力」・「書く力」を学年の発達段階に応じて系統的に位置づけることにより、本校の生活科・総合的な学習の時間での学びを支える基礎・基本の力としてとらえる。

教　育　目　標

○自ら学び　自ら考える子
○明るく元気でがんばる子
○すなおで思いやりのある子

研　究　主　題

一人ひとりが生かされる集団づくりをどのように進めていけばよいか
～「ふるさと・人権」をテーマにした
生活科・総合的な学習の時間の取り組みを通して～

総合的な学習の時間（とことんタイム）の目標

ふるさと・人権
○地域の自然・産業・文化・歴史を通して、「ふるさと」を学ぶ
○地域の人々とのふれあいを通して、人の生き方を学ぶ

育てたい力 低学年（生活科）	育てたい力 中　学　年	育てたい力 高　学　年
○興味を持って取り組むことができる。 ○自分が見つけたことをくふうしてわかりやすく伝えることができる。 ○地域の自然に親しみ、楽しむことができる。 ○人の話を聞くことができる。	○自分なりのこだわりを持って取り組むことができる。 ○調べたことを絵や文などにまとめて、わかりやすく伝えることができる。 ○地域の自然や、人々の生活を知ることができる。 ○友だちの考えを認めながら、自分の考えをきちんと言うことができる。	○自分なりの解決の見通しを持って 取り組むことができる。 ○調べたことを効果的にまとめ、相手や 目的を考えて伝えることができる。 ○地域の人々のくらしを通して、自分の生き方を考える。 ○友だちの考えを取り入れながら、自分の考えを高めることができる。
基礎・基本の力 □知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手にわかるように話す。 ◇大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞く。 ■相手や目的を考えながら、書く。 ■書こうとする題材について必要な事柄を集める。 ■見たり聞いたりした事、経験した事などについて、順序がわかるように語と語や文と文との続き方に注意して書く。	**基礎・基本の力** □伝えたい事を選び、自分の考えがわかるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉づかいで話す。 ◇話の中心に気をつけて聞き、自分の感想をまとめる。 ■相手や目的に応じて、適切に書く。 ■書く必要のある事柄を収集したり選択したりする。 ■書こうとする事の中心を明確にしながら、段落と段落との続き方に注意して書く。	**基礎・基本の力** □考えた事や自分の意図がわかるように話の組み立てをくふうしながら、目的や場に応じた適切な言葉づかいで話す。 ◇話し手の意図を考えながら話の内容を聞く。 ■目的や意図に応じて、自分の考えを果的に書く。 ■全体を見通して、書く必要のある事柄を整理する。 ■必要な情報を集め、事象と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする。

具体的な姿	具体的な姿	具体的な姿
・地域に出かけ、自然や人々とのふれあいを多く持つ。 ・体験したことをさまざまな方法でくふうして伝える。 ・自然に積極的にかかわり、遊びをくふうしたり、発見したり感動する。 ・相手の気持ちを考えて聞く。	・地域に出かけ、自分なりの課題を見つけ、課題解決の見通しを持つ。 ・調べたことや体験したことを要点をまとめ、わかりやすく伝える。 ・地域の自然や人々の生活の様子に関心を持ち、主体的に学ぶ。 ・グループ学習を通して、教え合い、相談しながら励まし合い、共に高まる。	・地域の行事や社会事象に関心を持ち、地域の人からの聞き取りやパソコンや図書館などで情報収集をする。 ・調べたことを取捨選択しながら目的に沿ってまとめ、発表する。 ・学習全体を通して自分と重ね合わせ、地域の人々の生き方に学ぼうとする。 ・友だちや自分のよさに気づき、互いに認め合うことができる。

地域の人材や学習題材	地域の人材や学習題材	地域の人材や学習題材
・おじいちゃん、おばあちゃん ・おとうさん、おかあさん ・商店街の人たち、商工会 ・まるやま公園 ・勝光寺（茜川） ・平井川 ・大野商事 ・大野郵便局	・公民館、解放会館、町役場、偕生園 ・師田原ダム、土地改良区（岡村さん） ・畑かん農家…　豊田さん ・スイートピー農家　…　十時さん・綿貫さん・伊東さん ・社会福祉協議会　…　二宮さん ・手話（高野さん、甲斐さん） ・浄水場、下水処理場 、土木事務所	・米作り農家 ・運動体、行政職員（解放学習） ・町役場（環境、解放学習） ・偕生園 ・保育園 ・南区、北区の史跡（現地学習） ・明尊寺、最乗寺　・文化財調査委員 ・ＪＡ、営農指導所

各　学　年　・　全　校　の　カ　リ　キ　ュ　ラ　ム

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○昨年度末に実施した観点別学力到達度診断テストの結果、算数教室で個別指導を受けた子どもたちの学力向上が目立つ。一概に違う教科の比較はできないし、学年によって算数教室に通う人数も違うので学年平均を絶対視することはできないが、個別指導の効果は大きいものがあると言える。これまで算数教室の対象でなかった５年生とは大きな差が見られる。

５年生における到達状況

	A	B	C
国語科	５０％	２８％	２１％
算数科	３０％	５３％	１５％

３年生における到達状況

	A	B	C
国語科	４２％	３３％	２３％
算数科	６１％	３３％	４％

４年生における到達状況

	A	B	C
国語科	３３％	３３％	３３％
算数科	６３％	１８％	１８％

Ａ　～　十分到達

Ｂ　～　到達

Ｃ　～　不十分

○学力到達度診断テストからわかるように、個別指導を加えなければならない児童が各学級に３～４人いるが、算数教室やＴＴ指導を充実させることで、そうした児童の学習意欲が徐々に高まってきている。本年度、３年生については３、４名の算数教室希望者がいたが、学力到達度診断テストで「基礎基本の力が十分ではないので、かなり個別に指導したり、日常的に学習の状況を見てあげる必要がある」という分析が出されたＡ児１人の入級とした。前の学年までの学習内容を中心としたカリキュラムを組み、繰り返し練習や具体的な操作活動による指導、学習に応じた家庭学習の課題作成と単元ごとの評価の連絡による家庭との連携などの取り組みをおこなってきている。その結果、次のような成果があがってきている。

・つまずいている単元がわかり、時間をかけてじっくり学習することができた。
・６月から取り組んできたかけ算九九５０問テストでは、下記の表のように確実に力をつけてきている。

月　日	正答数（50 問）（100 問）		時　間	月　日	正答数（50 問）（100 問）		時　間
9／2	３１		12 分	11／4	３６		3 分 22 秒
5	３４	６５		5	４１	７７	3 分 08 秒
9	２７		８分	6	４１		3 分 50 秒
11	３２	５９	10 分	7	４５	８６	4 分 54 秒
16	３６			11	４０		3 分 17 秒
19	３４	７０	９分	13	４３	８３	4 分 20 秒
22	３９		８分	15	４３		3 分 39 秒
24	３８	７７	６分	21	４３	８６	3 分 26 秒
26	４２		７分	25	４０		
10／2	４３	８５	７分	26	４８	８８	
3	４２		５分	27	４２		4 分 12 秒
7	４６	８８	4 分 30 秒	28	４５	８７	6 分 17 秒
9	４２			12／2	４４		4 分 18 秒
10	３８	８０		3	４８	９２	5 分 56 秒
14	４３			4	４６		4 分 49 秒
15	４２	８５		5	４７	９３	4 分 38 秒
16	４１			9	４９		4 分 08 秒
17	４２	８３		10	４７	９６	5 分 30 秒
21	４２			11	５０		4 分 00 秒
22	４３	８５		17	４９	９９	3 分 36 秒
23	４２		3 分 01 秒	18	４４		3 分 17 秒
24	４２	８４	5 分 24 秒	19	４９	９３	3 分 29 秒
29	４３		3 分 20 秒	1／9	４８		4 分 50 秒
31	４４	８７	4 分 15 秒	14	４８	９６	3 分 17 秒

国語科においては、Ｔ１が主となり授業を展開する間Ｔ２がＡ児の指導にあたる一進一補型のＴＴ指導で、前学年までの漢字の定着・斉読や連れ読みを通した読み取りの力の獲得・身近なできごとを順序を押さえながら簡単な文章にする作文指導に取り組んできている。その結果、次のような成果があがってきている。
・一文字一文字の拾い読みから、言葉のまとまりや文節に気をつけた読み方ができるようになってきている。
・年度当初漢字については、自分の名前や学年に関わるもの・漢数字の一部・曜日に関わるものの読み書きはできるが、２年生までに出てきた漢字はほとんど定着していなかった。毎時間の漢字小テストの取り組みを通して、１・２年生の新出漢字の内、１学期末は５０字程度の、２学期末にはさらに１００字程度の漢字の読み書きの力がついてきている。
・拗音や促音のぬけや字句の誤りはなどはあるが、教師の支援を得ながら４００字詰め原稿用紙１枚の作文や感想文が書けるようになってきた。

○４年生では４名、５年生では３名が算数教室で学んでいる。いずれも「わかった」「できた」という喜びから、落ち着いた態度でねばり強く取り組むようになってきた。計算力はこれまでの積み重ねで原学級の児童とかわらないぐらいの力をつけてきている。また、「算数教室でわかりやすくゆっくり教えてくれるのがうれしい。」「前より算数がわかるようになり、やる気がでてきた。」（児童対象アンケートより）と、意欲を高めている。

○児童対象のアンケート結果より、「国語の授業が楽しくなった」「やる気が出た」の項目で著しい効果が見られた。ＴＴ等の経験年数を重ねたほどその成果が著しいようである。

○ＴＴ指導は、児童にとっては疑問やつまずきを気軽に聞くことができるので、解らないまま過ぎることがなくなった。その結果、「わかった」「できるようになった」と感じることが多くなり、学習に意欲的に取り組むようになった。

○５年生の「家族のくらしを見つめて」の取り組みでは、国語科で培った力が総合的な学習に役立ち、再び国語科の学習に返って生きるという道筋を明らかにする上で意義深い提案がなされ、これまでの研究の確かさと今後の研究の方向性を確認し合うことができた。

２．今後の課題

○本年度は、

①生活科・総合的な学習の時間の学びを支える基礎・基本（読む・書く・話す・聞く等）の確実な定着
②ＴＴ指導、算数教室の充実

というふたつの側面からアプローチしてきた。
①については、課題解決学習のなかで「まとめる・追究する・伝える」活動を充実させる上で国語科の基礎・基本の力の定着がたいへん重要であることが具体的な実践によって明らかになってきている。そこで今後は、国語科を中心としながら教科学習で培われる学力が総合的な学習に役立ち、総合的な学習の取り組みのなかで磨かれて、再び教科学習に返って生きるという相互補完の関係を明らかにすることを課題のひとつとしていきたい。
②については、基本的には本年度の取り組みを継承しながら、児童の学力保障のための指導体制や指導方法の充実に向け、ＴＴ指導と算数教室の取り組みをさらに工夫していきたい。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○観点別学力到達度診断テスト（標研式ＣＤＴ－Ⅱ）
・目　的　　学習内容の理解度や定着度など児童の学習状況を把握し､個々の指導に生かすため。
・実施内容　国語科・算数科
・時　期　　２月下旬～３月上旬

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○公開研究発表会の開催予定
・日　時　　２００４年１１月５日（金）　１３：００～
・場　所　　大野郡大野町立中部小学校
・対　象　　大野郡内小学校教職員

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑１５年度からの新規校　　□１４年度からの継続校

【学校規模】　☑６学級以下　□７～１２学級　□１３～１８学級　□１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　□少人数指導　☑Ｔ．Ｔによる指導　□一部教科担任制　☑その他

【研究教科】　☑国語　□社会　□算数　□理科　□生活　□音楽　□図画工作　□家庭　□体育　☑その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑有　□無